

令和5年度枚方市立中宮中学校 学校評価

1. 学校教育目標

すべての生徒に、自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する

《めざす子ども像》 人を大切にする生徒・責任をもって自己決定できる生徒・自分で考えて行動できる生徒

《中宮中学校区めざす子ども像》 『自ら考え行動し、多様性のある社会の中で、共生できる子ども』

2. 学校経営重点目標

1. 学力向上(学ぶ力を育てる) 2. 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成 3. 支援教育・人権教育の充実 4. 生徒指導の充実
5. 道徳教育の充実 6. 健やかな体と心を育む教育 7. 教職員研修の充実 8. 小中連携の充実 9. 危機管理 10. 家庭・地域との連携の推進・充実

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める) ()は昨年度%	□取組内容の自己評価 ◆生徒調査% ◇保護者調査%
確かな学力と自立を育む教育の充実	・教育課程 ・学習指導 ・キャリア教育	1. 学力向上(学ぶ力を育てる)	<p>①対話的なグループ学習や、ICT を有効に活用して、生徒が主体的に学びに参加し、深く思考し学ぶ授業を行い、生徒の「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育てる。</p> <p>➡全教科、単元などまとまりごとに実施する。</p> <p>②効果的な単元計画提示と学習評価の充実により、生徒の「学習意欲」と「学ぶ力」を向上させる。</p> <p>➡教室掲示の状態とアンケート(生徒) 「授業はわかりやすい」強く肯定する回答の割合 43.1%(R4)以上をめざす。</p> <p>③授業と関連付けた家庭学習課題、AIドリル等 ICT 教材を活用し、自学学習力を育成する。</p> <p>➡アンケート(生徒) 「家では学校の授業の予習復習を」肯定的回答46.6%(R4)以上をめざす。</p> <p>④小テスト、補充学習、ICT 活用などで基礎学力の定着を図り、課題のある生徒の学力を保障する。</p> <p>➡アンケート(生徒) 「授業はわかりやすい」強く肯定する回答の割合 43.1%(R4)以上をめざす。</p> <p>⑤配慮を要する生徒の状況を把握し、教育的ニーズの整理を行い、授業のUD化や困り感に寄り添った合理的支援により、すべての生徒の学びを保障する。</p> <p>➡どの教室もUDの環境が整っているか。</p>	<p>① 「学びに向かう力」の育成に取り組みました。ペア学習やグループ学習、ICTを活用した授業に取組み、生徒の「学ぶ力」「考える力」や「言語力」、「コミュニケーション力」の育成をすすめました。</p> <p>②④ 単元計画を教室掲示し、生徒一人ひとりに見通しを持たせることで「学ぶ力」の育成に取り組みました。単元によってはあえて見通しを持たせないことで、生徒の「学びに対する意欲」を高めるなど学習効果を狙った取組みも工夫があります。</p> <p>◆「授業はわかりやすい」を強く肯定する回答の割合 1年 57.9% 2年 52.6% 3年 58.9%</p> <p>③ 家庭学習習慣の定着は、前年比で改善はみられるもの課題と捉えています。補充学習の実施、小テストや単元末テスト、基礎基本の定着に取組んでいます。</p> <p>◆「家では学校の授業の予習復習を…」の肯定的回答の割合 57.1%</p> <p>⑤ すべての教室で教室前面のユニバーサルデザインは定着しています。</p>
		2. 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成	<p>①総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメントと、キャリアパスポートを活用などキャリア教育の充実により、「自分と社会を結びつけて考え、行動することができる生徒」を育成する。</p> <p>②一人ひとりの生き方を考える進路学習と、生徒が主体的に進路を選択するための適切なアドバイスと支援を行い、すべての生徒の希望する進路を実現させる。</p>	<p>① 職業講話(1年)、職業インタビュー(2年)、エナジード(3年)を実施しました。それぞれの学年で発達段階に応じ、社会課題に向き合う機会を設けました。自分と社会を結びつけて考え、行動する力の育成を進めています。</p> <p>② 各学年の発達段階に応じた進路学習を進めています。3年生では進路決定に向けた教育相談と懇談を通じて、一人ひとりの進路選択、実現を支援しています。不登校傾向の生徒など進路保障が困難な生徒への支援の充実が課題です。</p> <p>◆「地域や社会をよくするために、何をしたらいいか考えることがある」肯定的回答の割合 61.1%</p> <p>◆「将来の夢や目標を持ち、実現するために取組もうと思っていることがある」肯定的回答の割合 85.9%</p>

<p>豊かな心と健やかな体を育む教育の充実</p>	<p>・支援教育 ・人権教育 ・生徒指導 ・保健管理</p>	<p>3.支援教育 ・人権教育の充実</p>	<p>①生徒の状況を踏まえ、生徒、保護者の思いに寄り添い、個に応じた支援教育により、すべての生徒に社会での「自立」に必要な力を育む。</p> <p>②同和教育、在日外国人教育、多文化共生教育、障害理解教育、ジェンダー平等教育など社会にある人権課題や戦争への正しい理解を深め、平等・共生社会と平和実現への実践力を育む。</p> <p>③いじめなど身近な人権侵害を見逃さず、自分たちの力で解決する取り組みと、学年・学級での「ともに学びともに育つ」教育を推進し、生徒に豊かな人権意識を育み、行動力を育成する。</p> <p>④子どもを「権利の主体」として尊重し、授業や生徒指導などの日々の教育活動の在り方について、検証し、生徒が自他の人権の大切さを実感できる教育を実現する。</p>	<p>① 生徒の状況を把握し、生徒と保護者の思いに寄り添って支援教育を進めています。</p> <p>②③④ 人権課題について正しい理解を深め、実践力を育むため、出会いから学ぶ講演会などの学習の機会を設けました。 「11/28 和太鼓奏者講演会」 外国にルーツがある生徒の「多文化のつどい」では、郷土料理や講話を通じた多文化の交流を計画通り年4回実施しました。 9/21 大阪弁護士会からのゲストティチャーを招き、いじめ防止教室を行いました。学級や学年において、日常から誰にとっても居心地の良い教室づくりが土台となるよう取り組みをすすめています 11月に全学年で「部落問題学習」に取り組みました。</p> <p>◇「学校には子どものことで相談できる先生がいる」肯定的な回答の割合 71.9%</p> <p>◇「子どもと食事や栄養、運動について…」肯定的な回答の割合 78.5%</p> <p>◆「先生は困っているとき、相談に乗ってくれる」強肯定の回答割合 68.0%</p> <p>◆「いじめはどんな理由があっても…」強肯定の回答割合 90.3%</p> <p>◆「命の大切さや人権について学んだり…」強肯定の回答割合 81.5%</p> <p>◆「先生はあなたのいいところを認め…」強肯定の回答割合 64.6%</p> <p>①⑥ 「発達支持的生徒指導」の視点から支える生徒指導のあり方を研究し、生徒指導・支援の改善を進めています。 校内の情報共有と組織的な生徒指導・生徒支援が行えています。必要に応じて専門家多職種との連携がとれています。</p> <p>②③④ 生徒指導主事、学年生徒指導担当を中心に情報共有を徹底し、組織的な生徒指導体制が整っています。 学級委員や各委員をクラスのリーダーとして学級づくりの中心的役割を持たせています。また班活動など小集団での共感的人間関係の構築を授業と一体的に取り組んでいます。生徒会が学校のリーダーとして学校全体に発信する機会を多く持たせ、学校全体の活性化につながっています。 安全教育や防災教育として、生徒自身に自分の命と安全を、自分で守る力の育成を進めています。</p> <p>○情報リテラシー教育：1学期に学級ごとに実施 ○薬物乱用防止教室：7/7(3年) ○非行防止教室：7/7(1・2年) ○命の安全教育：6/29(2年) ○自転車安全教室：11/2(1年) ○救急救命講習会：11/9(2年) ○性教育：10/4(1・3年) ○避難訓練：6/30・10/31・3/5 ○人権講演会(部落問題学習)：11/28 ○いじめ予防授業：9/21(1年) 日ごろの見守りに加えて、生活アンケート(毎学期)、QUテスト(年2回)把握や教育相談期間を設けて、きめ細かな支援を心がけています。 打合せ(毎朝)、生指部会(毎週)やケース会議(随時)等で生徒の状況を共有しています。</p> <p>◆「生徒会行事や委員会、学級活動に積極的に参加している」強肯定の回答割合 48.1%</p> <p>◆「命の大切さや人権について学んだり…」強肯定の回答割合 81.5%</p> <p>◆「地震や台風、火災などが起こった場合、どのような…」強肯定の回答割合 51.4%</p> <p>⑤ 「いじめ防止基本方針」「いじめ防止マニュアル」「不登校対応ガイド」を年度初めと2学期当初に再確認し、組織的な対応と初期対応について共通認識を持ちました。 不登校生徒に関わる不登校支援員、スクールカウンセラーとの連携に加え、家庭支援が必要な生徒に関するスクールソーシャルワーカーとのケース会議を持ちました。家庭状況によっては、子ども家庭センター、子どもの育ち見守りセンター(ととな)と連携して見守り支援を継続しています。 新規不登校生徒数(3)名</p>
	<p>4.生徒指導の充実</p>	<p>①報・連・相を徹底して組織的な生徒指導を実践し、生徒が安心して学べる学校を実現する。</p> <p>②学級、学年集団づくりを生徒指導の土台に据えた「開発的生徒指導」により、自治・自律力のある生徒を育てる。</p> <p>③薬物乱用防止教育やメディアリテラシー教育、交通安全教育、防災教育により、自らの命と健康を大切に知識と意識を育む。</p> <p>④組織的な日常の見守りに加え、生活アンケート、Q-Uテスト、ICTを活用した「気持ちの可視化」「SNS相談」を併用し、教育相談体制を整え、生徒の思い、困り感をきめ細やかに把握し、寄り添う指導を充実させる。</p> <p>⑤いじめ・不登校・虐待に対する教職員の意識と指導力を高め、未然防止と早期発見、的確な初期対応に組織的に取り組み、生徒を全力で支援、問題を解決する。</p> <p>⑥配慮と支援が必要な生徒についてのアセスメントと的確な外部機関連携で、生徒の安全を守る。</p>		

豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	<p>5.道徳教育の充実</p> <p>6.健やかな体と心を育む教育</p>	<p>①教科書の読み物教材を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れた道徳の授業及び、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>①体力向上や食育、睡眠学習、スマホ依存、命と性に関する教育など生徒の実態を踏まえた学習の機会を設け、啓発に取組み生徒の体と心を育てるとともに、家庭の意識啓発をすすめる。</p> <p>②性に関する指導を通じて、生徒が性に関する課題に適切に対応できるよう正しい知識を身につけ、実践するとともに、自他を尊重する態度の育成を行う。</p>	<p>①教科書の読み物教材を基本に、さまざまなテーマ、教材を使った道徳の授業にローテーション形式で取り組んでいます。学校のすべての教育活動を通して道徳教育に取り組んでいます。</p> <p>◆「いじめはどんな理由があっても…」強肯定の回答割合 90.3%</p> <p>◆「命の大切さや人権について学んだり…」強肯定の回答割合 81.5%</p> <p>①② 外部講師を招き、効果的な性教育を実施することができました。生徒の健全育成に必要な教育を専門家多職種とも連携しながら進めていきたいと思えます。</p> <p>保健体育、家庭科の授業、保健だより、食育だよりなどを適切なタイミングで活用し、さまざまな場面で生徒の健康教育や健康増進に取り組む、体力向上や保健衛生についての意識向上も図っていきます。</p> <p>引き続き感染症の拡大予防の観点から取組みが定着しました。今後は、状況に応じてマスクの着用や密を避ける行動ができる力を育てる必要があります。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「性の多様性を尊重する力やジェンダー平等を実現する力を育む教育に取り組んでいる」肯定的な回答の割合:95.4%</p>
教職員の資質と指導力の向上	<p>・研修</p> <p>・学校評価</p> <p>7.教職員研修の充実</p>	<p>①服務研修や人権教育に関わる研修、セルフチェックなどにより、生徒に範を示す立場にある教育公務員であることを常に自覚して行動する資質を涵養する。</p> <p>②学力向上担当を中心に、校内研修・教科、ミニグループの研究授業・教科会議での授業プラン研究討議などに組織的に取り組み、「主体的・対話で、深い学び」の授業力を身につける。</p> <p>③効果的なICTの活用研修と環境整備を進め、効果的な授業改善や業務改善をすすめる。</p> <p>④生徒指導主事を中心に生徒指導の実践や学級づくりなど課題に則した生徒指導研修に取組み、個々の教員の指導力の向上を図る。</p> <p>⑤大人教や府外教が主催する研究会への参加や、人権課題に関わる校内研修、社会問題に関する情報共有を推進し、教職員が確かな人権意識、人権に関する知識と指導力を身につける。</p> <p>⑥ローテーション道徳を活用した道徳の指導力の向上と評価の充実・改善に取り組む。</p> <p>⑦学校教育目標の達成に向け、諸調査のデータや生徒の実態を踏まえた PDCA サイクルを働かせ、カリキュラムマネジメントに取り組む。</p>	<p>① 実際に他校で起きた事象などを研修の事例に取り入れることで、職員の当事者意識の醸成に取り組んでいます。「信頼される教職員であり続けるために」必要な意識、言動について考える機会を持ちました。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「セクハラやパワハラ服務上の問題なく気持ちよく働ける」強肯定の回答割合 69.6% 肯定回答の割合:100%</p> <p>②⑤⑥ 学校全体で授業力向上に向けて取り組む雰囲気がつくられてきました。教科、ミニグループでの研究授業は活性化しています。8月、1月に枚方市教育委員会教育研修課指導主事による授業づくり研修を実施しました。</p> <p>人権教育部担当者などが研修に参加して、発表したり学習したりした学びを共有するなどさまざまな人権課題に取り組むをすすめています。</p> <p>学年の教員で取り組む「ローテーション道徳」、その相互授業参観に取り組みました。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「授業力のスキルアップに積極的に取り組む…」肯定的な回答の割合 78.2%</p> <p>③ タブレットなどICTを活用した授業改善は進んでいます。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「枚方版ICT教育モデルに基づいた端末の活用を行っている」強肯定の回答割合 57.1%</p> <p>④ 特にいじめ対応について、定期的に事例検討研修を実施しています。組織的な対応と法的な理解を教職員が身につけていくことを目的としています。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「いじめや暴力行為など生徒の問題行動や不登校に組織的に対応できた」肯定的な回答の割合 100%</p> <p>⑦ 今年度の取組みについての検証・総括を踏まえ、教育目標と学校全体像を可視化した「学校グランドデザイン」の改訂に取り組んでいます。</p> <p>(教職員アンケートから)</p> <p>「学校の教育活動全体について、学習指導要領のねらいや意義を理解して実現に向けた工夫改善を行っている」肯定的な回答の割合 82.6%</p>

学びのセーフティネットの構築	・教育課程 ・情報提供 ・保護者連携	8.小中連携の充実	①校区小中学校で育てる児童・生徒像を共有し、義務教育9年間の学びを見据えて系統的な学力向上・生徒指導・キャリア教育など校区一貫教育を推進する。 ②推進委員会、生徒指導部会、事務部会、支援教育部会などで校区小中学校の教員の顔が見える交流、情報共有を実現する。	①② 小中一貫教育推進事業をすすめ、校区の3小学校との合同研修や授業研究を実施しました。ブロック校長会、推進部会で校区共通の課題を共有しながら9か年の一貫した教育活動の推進をめざしてまいります。
		9.危機管理	①食物アレルギー疾患への対応、熱中症、感染症対策等において組織的に取り組み、生徒の命と安全を守るとともに、自他の生命を大切にすることを育むための取り組みを行う。 ②自然災害・不審者侵入・交通事故等に対する安全教育、防災教育を充実させ、生徒に生涯を通じて安全に生活を送る基礎や危険に適切に対応する力、自分自身を守るために主体的に行動する態度を育み、地域の一員として小学生や地域の災害弱者を守る生徒を育てる。	①② 防災教育や避難訓練の実施を通して、自らを守る知識は一定育てることができていると思います。地震や火災だけでなく、非常災害や感染症の拡大、熱中症等、さまざまな状況にも対応できる力の育成に取り組んでいきます。 また、地域の一員としての自覚を育むことで、共助、公助の意識の醸成も取り組むべき課題です。 ◆「命の大切さや人権について学んだり…」強肯定の回答割合 81.5% ◆「地震や台風、火災などが起こった場合、どのような…」強肯定の回答割合 51.4%
		10.家庭・地域との連携の推進・充実	①これからの学校の在り方と地域連携の構築に向けて、PTA、地域教育協議会やコミュニティなどの地域団体との情報交換、取り組み参画の在り方を考え、地域の学校としての役割を果たす。 ②日常の教育活動について学校便りや学年通信、保健だよりなどの発行物、ブログなどの小まめな情報発信を進めるとともに、新学習指導要領と評価、学校の授業改善や業務改善など新しい取り組みについてもわかりやすい情報発信に努め、理解、協力を促進する。	① PTA や地域教育協議会との連携はコロナ禍を経て見直しをすすめています。 共催による「中宮中フェスタ」についても、学校がどのような形で参画していけるかが検討課題であります。 ② 保護者、地域への学校の見える化を意識して、学校ブログ、学校だより、保健だよりや学年通信、学級通信などの発信をすすめています。 学校が取り組んでいる「これからの社会を生き抜くために求められる力を育む教育」「教職員の働き方改革」「これからの部活動あり方」などについてもいねいな説明をし、理解をしていただくことが必要です。 ◇「学校は、ブログや通信などを通じて、学校の取り組みを…」肯定的な回答の割合 93.5%

4. 学校関係者評価(学校協議会より)

評価結果
<p>学ぶ力 「授業が分かりやすい」の高評価がよい、わからない授業では登校する意欲がなくなる・ICT を使った取り組みはよいが、だれ一人取り残さないための検証をお願いします</p> <p>社会の中で他者と支え合い自立する力 不登校生徒の進路選択の充実を願います・進路選択への支援体制の充実が必要</p> <p>支援教育・人権教育の充実 子どもたちに互いに認め合う事の大切さを学ぶ機会の充実を・現代の抱える課題である、根気強く取り組んでほしい</p> <p>生徒指導の充実 学校の取り組みで学んだ知識を社会で生活に活かせるものに・多岐に渡ってきめ細かい指導をしてくださっていると思う</p> <p>道徳教育の充実 生徒自身に道徳の必要性を感じる工夫を・教職員を含めて大人も道徳を学び続ける必要がある</p> <p>健やかな体と心の育成 家庭への意識啓発は難しいが大切な視点・家庭の中で子どもたちがどのような生活をしているか学校生活へも大いに影響がある・子どもたちが安心して生活できる過程であることを願う・異性を意識する年代であるので性教育の充実が必要</p> <p>教員研修の充実 生徒への向き合い方が多様で先生方の苦労があると思う・子どもたちに寄り添う指導を願う・先生のスキルアップが生徒の成長につながる部分もあるので色々なことに挑戦してほしい</p> <p>小中連携の充実 明倫小とはどのような連携をとられているのか・中学校入学時の不安を取り除くよう取り組みを</p> <p>危機管理 地震や自然災害時の避難方法や意識啓発は大切・子どもの安全を我々も見守っているが自分自身のことを守るすべを教えることは大切</p> <p>家庭地域との連携 皆が参加しやすいPTA 活動をすすめてほしい・引き続きよろしくをお願いします。</p>

5. 次年度に向けて

項目	○改善方策
<p>い 学 習 指 導 ・ 授 業 に つ</p>	<p>・学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進していきます。</p> <p>・一人一台端末タブレット iPad の効果的な活用、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を、さらに研究していきます。</p> <p>・確かな学力と自己実現のための学びのため、「教師が教えるだけの授業」から「生徒が学び取る授業」への転換をすすめてまいります。</p> <p>・学力向上授業改善部を中心に、教科部会や校内研修、研究授業の活性化と課題解決に向けた取り組みを具体化していきます。</p> <p>・学校教育目標の達成、めざす子ども像の達成のため、グランドデザインをより実用性のあるものとし、各学年、各教科、各分掌の活動を効果的なものにしていきます。</p>
<p>育 ・ 支 援 教 育 ・ 安 全 教 育 ・ 人 権 教 育 の 充 実 に つ い て</p>	<p>・支援教育の充実に向け、「ともに学び、ともに育つ」の観点から、集団づくり、学級づくりを一層充実し、人権が尊重された教育の推進を学校全体で進めてまいります。</p> <p>・全教職員が支援教育に関する理解を深め、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握することで、自立に向けた効果的な指導と支援をすすめてまいります。</p> <p>・教育支援ソフト LITALICO を活用し、生徒を丁寧にアセスメントし、効果的な支援となるよう努めてまいります。</p> <p>・人権教育の充実について、さまざまな人権課題に触れ、考える機会を設けることで、自他ともに認め合いいじめなどに向かわない集団づくりにつなげてまいります。</p> <p>・生徒指導の充実について、引き続き、生徒指導主事を中心とした校内指導体制を整え、課題や問題に組織的対応をとれるよう図っていきます。</p> <p>・すべての生徒を対象とした「発達支持的生徒指導」について研究と推進をすすめてまいります。</p> <p>・道徳教育の充実に向けて、家庭や地域との連携をすすめ、家庭地域学校が一体となった取り組みをすすめてまいります。</p> <p>・安全教育の推進について、日頃からの施設設備の点検を行い、学校事故の防止に努めてまいります。</p>

教職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス規律の確保、徹底を図り、保護者、生徒など学校に関係する方々からの信頼を高めるため、より効果的な校内研修を実施していきます。 ・教職員が働きやすく、心理的安全性の高い職場環境を整えることで、高い意欲と優れた指導力を持つ教員の育成をめざしてまいります。 ・校内研修の実施について、サービス規律の確保、授業改善授業づくり、いじめ不登校対応、人権支援教育の充実、業務改善働き方改革の5点を柱とすすめてまいります。 ・府や市が実施する研修だけでなく、日常的なOJTの機会を活用、推進し学校全体の教育活動の向上を図ります。
小中連携・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の推進について、校区3小学校とともにめざす子ども像の共有と校区合同研修や校区授業研究をすすめてまいります。 ・ブロック校長会、推進部会で校区共通の課題を共有しながら9か年の一貫した教育活動の推進をめざしてまいります。 ・地震や火災だけでなく、非常変災や感染症の拡大、熱中症等、さまざまな状況にも対応できる力の育成に取り組んでいきます。 ・危機管理マニュアルの点検見直しとともに、本校の危機管理体制整備を図ってまいります。

以上の内容で、令和5年度の中宮中学校の取組みに関わる学校評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

この学校評価を、令和6年度の取組みに反映させ、本校教育を充実させてまいります。

枚方市立中宮中学校 校長 古川 敦史